

2019年度 個人研究実績・成果報告書

2020年 4月 27日

所属・職名	基盤教育機構・助教	氏名	赤木 茅
研究課題	ビッグデータ及び ICT の経済統計への利活用に関する研究とその実装		
研究キーワード	ビッグデータ 経済統計 ICT	当年度計画に対する達成度	2.順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が達成できた
<p>1. 研究成果の概要</p> <p>内閣府経済社会総合研究所 SUT ユニットにおいて、研究プログラム「経済センサス個票データに基づく供給表の作成とその推計方法の比較検証」を実施し、経済センサス個票データを用いて既存統計の再現及びその問題点の把握を行い、その研究成果を ESRI Research Note として作成。また、検証結果を 2019 年度中に論文誌に投稿予定。</p> <p>会計ビッグデータを活用した Agent-Based Simulation Model を作成し、学会において発表。また、データ取得のため、大田区へのヒアリング調査等を実施。</p> <p>e-invoice 制度への移行に関わる、調査研究をエストニア及びフィンランドにおいて実施し、その研究成果を 2019 年度中にエム・アール・アイリサーチアソシエイツ株式会社より報告書として作成予定。</p> <p>2. 著書・論文・学会発表等（海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載）</p> <p>【著書】千葉商科大学 情報入門 2020 大学生のための情報リテラシー 2020、赤木 茅 他、2020、千葉商科大学、全章 担当</p> <p>【論文】「産業別生産物産出表(V表)作成手法に関する調査」、赤木 茅、単著、ESRI Research Note、2020、査読なし</p> <p>【発表】”An Agent Based Economic Model with Centralized Mode Analysis for the Economic Big Data: Method for Management and Scenario Simulation of Bookkeeping Big Data”, The 12th ASian Control Conference - ASCC2019, Kitakyushu International Conference Center</p> <p>【発表】経済センサス個票データを用いた産業別生産物産出表(V表)の推計、第 63 回 経済統計学会 全国研究会、2019 年 9 月 6 日、東北学院大学</p> <p>3. 主な経費</p> <p>分析及びプログラムの作成のために Mac Book Pro を購入した。</p> <p>資料の印刷及び読み込みのためにプリンターを購入した。</p> <p>4. その他の特筆すべき事項（表彰、研究資金の受入状況等）</p> <p>【海外調査】SUT(供給・使用表)作成におけるインボイス情報活用に関する海外調査研究に関する海外ヒアリング調査業務 エム・アール・アイリサーチアソシエイツ株式会社</p> <p>【講演】内閣府経済社会総合研究所 SNA 研修 講演「ビッグデータと統計作成」2020.02.27</p>			